

病理学	1年・後期	1単位	教授 安部 まゆみ
科目カテゴリー	看護の対象の理解	科目ナンバリング	32210331

1. 授業のねらい・概要

疾病や病態の概念、その成り立ちを学習し、その科学的知識を将来の看護の実践に活かす事ができるようにする。

2. 学修の到達目標

1. 疾病・病態の種類や、それらの成り立ちの全体像を理解する。
2. 病理学の知識を元に、疾病の予防や治療、看護について考察する事ができる。

3. 授業の進め方

テキストに基づいた講義を中心に進めるが、適宜、標本やプリントを用いる。

4. 授業計画（講義）

1. 第1章 はじめに	9. 第8章 環境因子・栄養
2. 第2章 細胞傷害・再生	10. 第9章 腫瘍①
3. 第3章 炎症	11. 第9章 腫瘍②
4. 第4章 免疫①	12. 第10章 生活習慣病・代謝疾患①
5. 第4章 免疫②	13. 第10章 生活習慣病・代謝疾患②
6. 第5章 循環障害	14. 第11章 難病・代謝障害
7. 第6章 先天異常・遺伝性疾患	15. 第12章 老年症候群
8. 第7章 感染症	

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）70%、課題（レポート）30%

6. テキスト・参考文献

テキスト：深山 正久 編 はじめの一步の病理学 第2版 羊土社

参考文献：杉本 由香 編著 2022年版看護師国試 PASS NOTE 学研メディカル秀潤社

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

授業前に必ず教科書の予定範囲を一読し、授業後はその日のうちに復習をし、併せて1時間以上は自己学習すること。

8. 受講上の留意事項

遅刻、欠席ならびに授業中の私語、許可の無い教室の出入り、授業に関係ない言動は慎む事。

受講の際には、本テキスト以外にも人体の構造と機能の教科書も持参すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

レポートは教員が内容をチェック・採点して返却する。試験の結果と模範解答は後日掲示する。

質問・疑義は授業で、あるいは適宜個別に説明・対応する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合は進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

医療機関における医師としての実務経験と医学系大学院における教員としての教育経験を活かして、講義を行う。